

セブンベルクリニック

〒492-8144 愛知県稲沢市小池4-122 ☎0587-33-7877



野村誠二院長

新しい産科

マンパワーを集約することで、
24時間万全の対応を。

取材・構成 恵原真知子

まず目を引くのは一般開業医ではありえないスタッフの充実ぶりだ。入院ベッド十六床に対し、常勤医師四人と非常勤医師八人が二十四時間対応で携わる。名古屋大学医学部産婦人科准教授だった野村誠二院長を中心とした人脈で、医療レベルも大学病院並み。さらに助産師もベテラン十五人が在籍し、常勤またはフレックスと、働きやすい条件で勤務している。

このマンパワーに加え、建物は明るく開放的。病室は全て個室で、ネット接続なども完備。診療時間は、夕方五〜八時の夜間診療や土曜診療も。女性医師外来やがん検診も可能で、産後には小児科医による新生児検診もセットされている。



病室はすべて個室で、差額ベッド代なしに利用できる

近づくにこんなクリニックがあれば、と感じる人も多いのではないだろうか。育士が上の子の面倒をみる託児システム（無料）もある。核家族で働く女性に何が必要か。よく考えられ、辛いところに手の届く形となっているのだ。

「名大の産婦人科医局の研修は昔から、昨今の研修医制度ばりに、専門の科だけでなく麻酔科、小児科など関連する複数の診療科目を重点的に回ることになっていました。出身大学は違っても、その同じ医局出身医師であれば実力も把握でき、チームを組みやすい」

深刻な産科医不足を解決し、出産難民をなくす特効薬はいずこに。医学部定員増といった遠大な構想はすぐには奏功しそうにない。有効な手立てとしては、現場の医師を働きやすくする、休眠している産科医（特に女性医師）を現場に戻す、若手医師を産科へ誘導するなどあげられ、様々な施設で個別の対策が試みられている。一昨年開かれたこのセブンベルクリニックは、妊婦にも医師にも心強い産科診療の新たなあり方といえそうだ。

上の子がいる妊婦は普通、通院のたびに誰かを煩わすことになるが、ここでは保

「産科の仕事は二十四時間対応が前提ですが、それでもこの仕事が好きで目指す若い医師は少なくないはず。現に私も、妊娠から出産に至るダイナミックで神秘的な過程に魅せられて産婦人科を選びました。現在二、三日に一回は当直勤務で、大病院時代より勤務はハード（いざれ解消されるはず）ですが、会議なども減り、充実した毎日です」と野村院長。学閥の利点も大きいという。

「他施設が当院のように人的資源を充実させるには、機能と医師の集約が必要。近隣に年間五百例を扱う病院が四、五軒あるなら、千例の二軒に集約するなど地域に応じたやり方を考えるべき」（山下理事長）



二の回想的評伝が本書だ。私は戸板康二、矢野誠一双方の愛読者——つまり彼らの東京っ子的感受性を愛好する

に決定的な溝をつくり出す」という一節が登場する。戸板康二が嫌っていた東京人に蘆原英了がいた。

た戸板に関する誤ったゴシップによってだ。それは明らかに蘆原が悪いのだが、かつて初台にあった

田原存に私淑した人間だからその批判には納得しかねる所もあるが、しかし、矢野誠一の記事は読ませる。

「金子君ッ、やめたまえ」という戸板の一声に金子は素直にうなずいた。ありがたいございました。